

## 先天性股関節脱臼

生まれた時から股関節がはずれている病気です。完全にはずれたものが脱臼、あしの動きで出入りするものが亜脱臼、はずれないが形がわるいものが臼蓋形成不全と呼ばれいずれも仲間の病気として扱われています。逆子の場合多く見られます。

先天性とはいうものの、実際には生まれた後に無理な力が加わりはずれてしまうものも多く含まれています。生まれつき「ゆるい」関節で子宮内の姿勢の偏りがひきおこすようです。新生児期、乳児期に正しい対処をすることで多くが予防できます。「ゆるい」関節は、親に似ることが多く、女の子に多い傾向にあります。

### <症状は？>

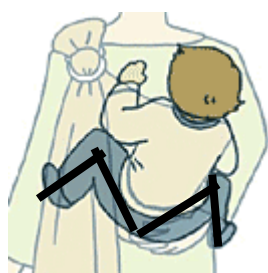
足の開きが悪い、足の長さが左右で違う、左右のふとももにできるしわの数が違う、オムツをかえる時股関節がコキッと鳴るなどの症状があるときは、早めに整形外科を受診しましょう。

### <予防は？>

～抱き方、衣類の注意などで、ある程度予防することができます～

- 抱くときは、股関節を伸ばさないように股の下から片手を入れて抱きお尻を支えるようにする。
- オムツや小さすぎる衣服で腰を締めつけない。
- 無理に足を伸ばさない。
- オムツを替えるときに足を持って引き上げない。
- 股がゆったりしていて自由に足が動かせる服を選ぶ。

※茅野市では4か月健診時に整形外科医師による診察を行っています。



#### スリングについて

赤ちゃんにとって、長時間足が動かせない状態にいることは、あまり望ましくありません。できるだけ時間は短くしましょう。イラストのような姿勢をとらせるようにします。